



微笑

第67号
令和6年1月5日
発行者
綾瀬市身体障害者
福祉協会

明けて
おめでとーございます

令和六年の幕開けです！皆さんにおかれましては、お健やかに新春をお迎えに成られたことと思います。

まだまだ不安が残る「新型コロナウイルス感染症」ですが、昨年の五月八日に「五類感染症」に変更され、外出制限もなくなりました。

今年度は神奈川県・綾瀬市・社会福祉協議会などもコロナ前のように様々な活動が再開されるようになってきました。

身障協会でも、昨年から対面（外出）での活動などを少しずつ行ってきましたが、今年度は五月の総会を始めにバス旅行（九月）、福祉レクリエーション大会&ボランテニア連絡協議会との交流会（十一月）、あやせ夢アート展（十一月）、神奈川県身体障害者福祉大会（十二月）を行うことが出来ましたのも、皆さんのご協力のお陰と心より感謝しています。今年も皆さんと力を合わせ、共に歩んでいける年になることを楽しみにしています。今年もどうぞよろしくお願いします。

西川 和朗



福祉レクリエーション大会 & ボランテニア連絡協議会 との交流会

西山 和夫

十一月十一日（土）、綾瀬市民スポーツセンターの体育館で、午前中に「第十四回福祉レクリエーション大会」、午後から「ボランテニア連絡協議会との交流会」が、社会福祉協議会の主催で行われました。



三年ぶりに行われた昨年は、午前中だけ「福祉レクリエーション大会」が行われ、お弁当をもらって解散となりましたが、今年は午前午後二つのイベントが合同で行われ、一日の開催となりました。

当日は秋晴れの気持ちのいいお天気にも恵まれました。午前の「レクリエーション大会」の開会式では、

社協会長、市長、市議会議員長の挨拶などの後にエアロビクスでの準備運動を行って、競技がスタート！

サイコロ競技やフラフープ輪投げ等が行われて、市内の高校生ボランテニアさんの協力もあって楽しく汗を掻きました。



ちようどお腹も空いてきた頃に昼食となり、配布して頂いた美味しいお弁当を頬張りながら、仲間たちと世間話に花が咲きました。

午後からの「ボランテニア連絡協議会との交流会」では、オーケストラによる楽器演奏やフラダンス、そしてコーラスグループによる歌唱などを楽しみました。

三年間ものコロナ渦で、めっきりと外出の機会も減ってしまいましたが、こうして皆さんとまたお会いして体を動かすことが出来ることを大変に嬉しく思っています。社会福祉協議会やボランテニアの方々のご協力に感謝しています。どうもありがとうございました。



第六十八回 神奈川県身体障害者福祉大会

高寄 邦雄

毎年恒例の「第六十八回 神奈川県身体障害者福祉大会」が、令和五年十二月十七日（日）に相模原市の市民会館ホールで開催されました。

この福祉大会は、「県内の身体障害者が一堂に会し、障害福祉にかかる課題を確認しながら、連帯を深め、ともに生きる福祉社会の実現に向けて、大会宣言にかかげる行動を決意し、もって身体障害者の社会参加及び社会福祉の向上の促進を目指すものとする」という目的で行われています。

例年は十月頃に行われる福祉大会ですが、今年では会場の関係から年も押し迫った師走に行われましたが、幸い当日は小春日和の暖かな一日でした。

朝八時三十分に市のマイクロボスと社協のハンドイクヤブで綾瀬市役所を出発して、道路渋滞なくスムーズに会場の相模原市民会館に到着することが出来ました。

昨年、秦野市で行われた福祉大会はコロナの関係で午前中だけの開催でしたが、今年度は四年ぶりに



コロナ前のように午前午後の内容での開催になりました。

午前の「第一部」では、内藤県身連会長や首藤副県知事の挨拶があり、開催市の本村相模原市長による歓迎の言葉を頂いた後、神奈川県知事表彰、県身連会長表彰、感謝状などが、今年の受賞者に授与されました。

そして、来賓の祝辞後、受賞者代表の挨拶、肢体・視力障害者の受賞者による体験発表などが行われた後、最後に相模原市身体障害者連合会の小出会長による「大会宣言」が行われ、午前の部が終了しました。

昼食は配布された美味しいお弁当に舌鼓を打ちながら一休みした後、「第二部」が行われました。アトラクションは開催市の光明相模原高等学校による和太鼓が披露され、勇壮な音が館内に響き渡りました。その後、海老名市で行われることが発表されて、海老名市身体障がい者伸生会の今福会長から挨拶がありました。無事に今年の福祉大会が終了しました。



来年は前述しましたように海老名市で「第六十九回 神奈川県身体障害者福祉大会」が行われる予定です。皆さんのご参加をよろしくお願ひします。

あやせ「夢」アート展を開催

「あやせ「夢」アート展」(障がい者が主役の作品展)が、十二月二日〜七日(三日を除く)の期間に綾瀬市役所一階の「ともしびショップむー」で開催されました。

この作品展は「障がいのある人もない人も、全ての人々の交流を図ることを目的」として、綾瀬市社会福祉協議会と綾瀬市福祉当事者団体連絡会の共催で行われました。



会場となった「むー」には、障がい者が制作した絵画や切り絵などの作品がたくさん展示されました。また

「障がい者週間」も重なったことから、市の障がい福祉課からは「障がいについての理解を深めるためのパネル展示」なども行われ、とても賑やかな展示となりました。

開催期間中は、各施設の方々や立ち寄られた市民の方々など予定して



いた以上の多くの皆さんに「障がいを持つ当事者」の作品を見て頂くことが出来ました。来場された方の中には、「障がいのある方が日常の中で感じる小さな喜びや美しい瞬間が、作品を通じて輝き、観る者にもその喜びを分かち合わせてくれるようにした。」と感想を漏らされている方もいました。

来年も多くの障がい当事者の方々の作品がたくさん展示できるような『あやせ「夢」アート展』が開催されることを願っています。

【新聞記事】UDタクシー車いす乗車拒否、三割超 共同通信十一月十三日

障害者団体「DPI日本会議」は十三日、UDタクシーの車いす利用者への対応を各地で調査した結果、乗車拒否が三割超あったとして、国土交通省に改善を要望した。東京五輪・パラリンピック前の令和元年調査よりも悪化。特に東京都以外での拒否率が高く、地域で格差があった。

調査は十月二十日に実施。十七都道府県で車いす利用者延べ一〇九人が参加した。流しや乗り場での乗車を試みたほか、電話やアプリで配車を予約できるか調べた結果、三十四・九%に当たる延べ三十八人が乗車を拒否されたと回答。令和元年調査では二十六・七%だった。

東京とそれ以外の地域で差が大きく、東京での乗車拒否が十七・二%

(令和元年調査は十一・四%)だったのに対し、他の地域では四十一・三%(同二十九・五%)と、主に地方で車いす利用者への配慮が行き届いていない現状が明らかになった。

国交省は東京五輪・パラリンピック前に、UDタクシーの購入費として一台当たり最大六十万円の補助を開始。担当者は「悪質な事業者に対しては行政処分も含め対処していきたい」と話した。

《説明》UDタクシーとは、高齢者や子ども、障害者も利用しやすく設計したタクシーで、UDは「ユニバーサルデザイン」の頭文字です。



「編集後記」

皆さんは年末年始はどのように過ごされましたでしょうか？私は昨年の後半から体調を崩してしまい、会員の皆さんにあまりお目に掛かることが出来なくて、申し訳なく思っています。気持ちはまだまだ若いつもりですが、年々体力の衰えも感じるようになりました。令和六年は通常通りの行事やイベントが行われると思いますので、私も体調を整えて皆さんと一緒に活動が出来ることを願っています。本年もよろしくお願ひ致します。

西川 和朗

